

平成10年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

1999

長野県更埴市教育委員会

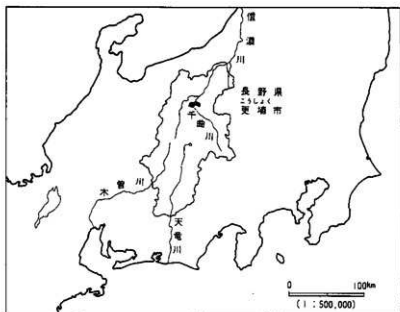


平成10年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

1999

長野県更埴市教育委員会



更埴市の位置

例 言

- 1 本書は、更埴市教育委員会が平成10年度に実施した埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 調査は、更埴市教育委員会文化課が主体となり、文化財係が担当した。

更埴市教育委員会事務局

教育長	下崎文義
教育次長	竹内幸義
文化課長	坂口寛子
文化財係長	下崎雅信
文化財係	春原峰子 佐藤信之 小野紀男 宮島裕明 市川由江

- 3 調査担当者は、文化財係担当職員があたり、調査員・作業員を募り調査を実施した。また、必要に応じて研究者の指導・助言を受けた。
- 4 本書は、各調査担当者が執筆して作成した。発掘調査のうち、規模の大きなものについては本書と別冊で報告している。
- 5 本書に掲載した位置図は、特にことわりがない限り、更埴市都市計画基本図を2分の1に縮小し、5,000分の1で掲載した。
- 6 本書中の方位は真北を示している。
- 7 各調査の出土遺物・実測図・写真等のすべての資料は更埴市教育委員会が保管している。なお、資料には各調査ごとに調査記号を付し、保管されている。

目 次

例言・目次	
平成10年度埋蔵文化財調査概要	1
1 更埴桑里水田址 発掘調査	7
2 大塚遺跡 発掘調査	15
3 市内遺跡 発掘調査	19
4 一本松古墳 発掘調査	27
5 倉科水田址 発掘調査	35
6 屋代遺跡群 整理調査	38
7～13 試掘調査	40
7 生仁遺跡 8 日ノ尾遺跡 9 古道遺跡 10 一丁田尻遺跡	
11 屋代遺跡群 12 戸崎遺跡 13 町浦遺跡	
14～24 立会調査	47
14 北中原遺跡 15 更埴桑里水田址 16 南沖遺跡 17 大穴遺跡	
18 法正寺遺跡 19 堂河原遺跡 20 北野遺跡 21 天木下遺跡	
22 更埴桑里水田址 23 土口遺跡 24 大池南遺跡	

平成10年度埋蔵文化財調査概要

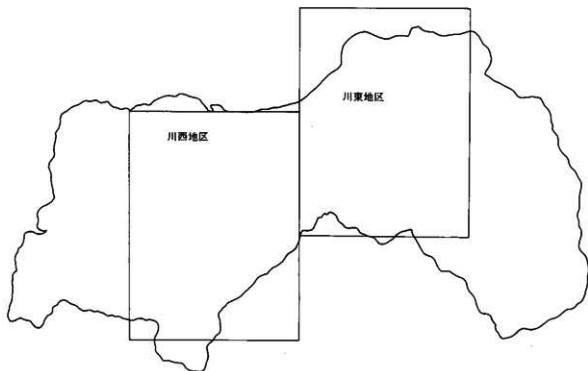
今年度実施した発掘調査は5件であり、昨年度から比べて半減した。調査費用では3分の1以下となっており、土ロバイパスの整理費用を加えても、昨年の半分程度となっている。民間の開発事業に伴う発掘調査は1件もなく、公共事業に伴う発掘調査が4件実施されている。

公共事業では、物産館建設に伴い更埴桑里水田址の発掘調査が実施された。また平成9年度から開始した星代中学校改築に伴う大塚遺跡の発掘調査では、流路を挟んで平安時代の水田跡と集落跡が検出され、水田域と集落域の接点に当たっていることが明らかとなった。また、稲荷山公園建設に伴い一本松古墳の調査が行われ、東側に造出が付く直径約10mの円墳であることが明らかになった。倉科水田址では、入浴施設建設に伴い発掘調査が行われている。この他に、しなの鉄道新駅建設予定地の試掘調査を行い水田跡を確認した。平成11年度に発掘調査を実施する予定である。

平成7年度から調査を開始した土ロバイパス建設に伴う発掘調査は、本年度より整理調査が本格化し、写真図版編が刊行された。報告書は平成11年度刊行予定である。

平成8年度より国庫補助を受け調査を実施している市内遺跡の発掘調査は、3か所の調査を実施した。土ロバイパスの調査で獨立柱建物跡が検出された地点の東側を調査したところ、官衙に関係すると思われる遺構の検出はなかったが、瓦が出土しており、付近に瓦葺きの建物が存在していた可能性が指摘できる。また武水別神社宮司松田館の調査では、土塁と共に堀跡を検出し中世の城館をそのまま宮司館としている可能性が高まった。この他に雨宮鹿寺隣接地の調査を実施した。

民間の開発事業は全体的に落ち着いた状況にある。長野オリンピック終了後の不況を反映してか、宅地造成に伴う調査が減少しており、試掘・立会調査を合わせて3件しかなかった。

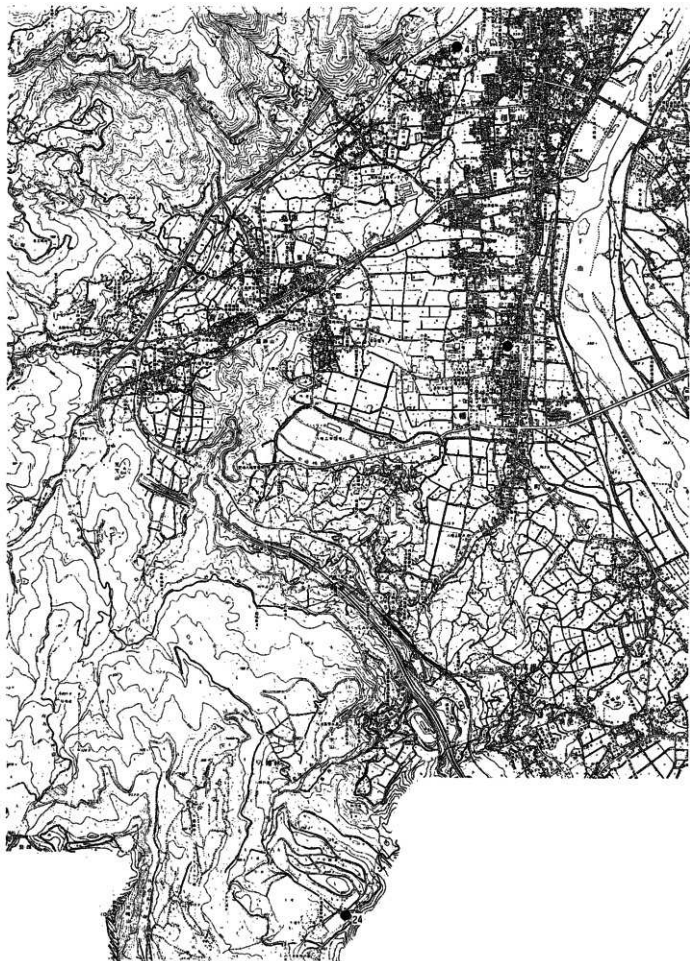


第1図 調査位置配置図

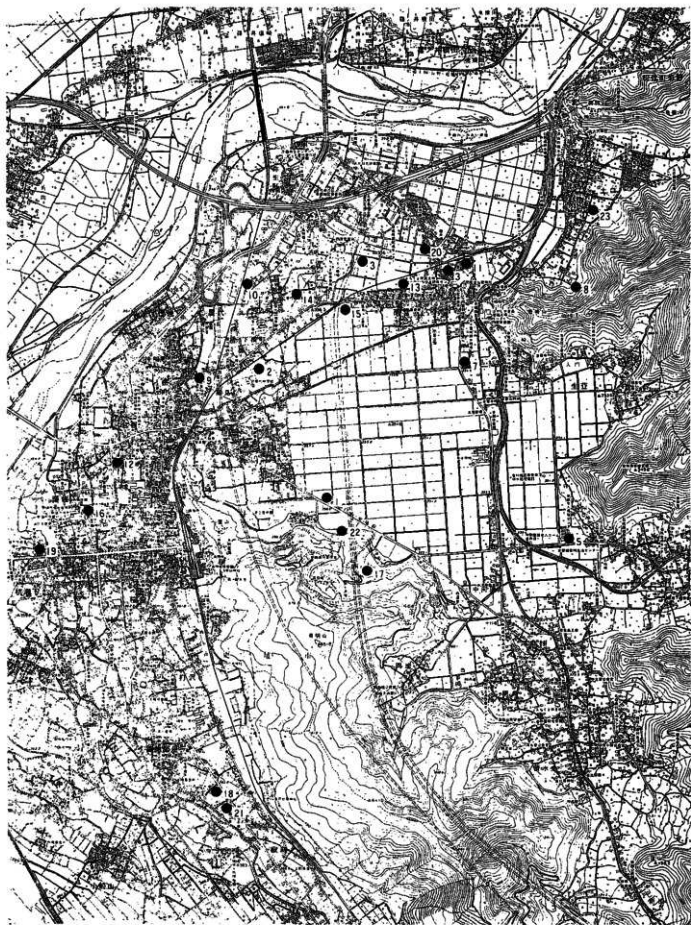
平成10年度調査一覧

番号	遺跡名	所在地	原因事業	原因者
発掘調査				
1	更埴条里水田址	屋代	公共事業=物産館建設	更埴市(農林課)
2	大塚遺跡	屋代	公共事業=中学校建設	更埴市(学校教育課)
3	市内遺跡 屋代遺跡群 松田稲跡	雨宮 八幡	学術=範囲確認調査	更埴市(文化課)
4	一本松古墳	稲荷山	公共事業=公園建設	更埴市(都市計画課)
5	倉科水田址	倉科	公共事業=(仮)ふれあい プラザ建設	更埴市(福祉課)
整理調査				
6	屋代遺跡群	雨宮	公共事業=道路建設	更地建設事務所
試掘調査				
7	生仁遺跡	雨宮	民間事業=工場建設	柳西澤製作所
8	日ノ尾遺跡	土口	民間事業=工場建設	ホクト産業㈱
9	古道遺跡	屋代	民間事業=宅地造成	柳大平商事
10	一丁田尻遺跡	屋代	公共事業=新駅建設	更埴市(政策推進課)
11	屋代遺跡群	雨宮	公共事業=道路建設	更埴市(建設課)
12	戸崎遺跡	栗佐	民間事業=店舗建設	堀内尊雄
13	町浦遺跡	雨宮	民間事業=宅地造成	柳7ジ総業
立会調査				
14	北中原遺跡	屋代	民間事業=資材置場建設	柳飯島工業所
15	更埴条里水田址	雨宮	民間事業=店舗建設	安藤勝等
16	南沖遺跡	杭瀬下	民間事業=宅地造成	上原博司
17	大穴遺跡	森	公共事業=道路建設	更埴市(建設課)
18	法正寺遺跡	寂蒨	民間事業=事務所建設	群馬県畜産加工販売 農業協同組合連合会
19	堂河原遺跡	杭瀬下	公共事業=水路改修工事	更埴市(都市計画課)
20	北野遺跡	雨宮	民間事業=店舗建設	小林幸一
21	天木下遺跡	寂蒨	民間事業=工場建設	丸善食品工業㈱
22	更埴条里水田址	屋代	民間事業=事務所建設	柳堀内商会
23	土口遺跡	土口	公共事業=道路建設	更埴市(建設課)
24	大池南遺跡	八幡	公共事業=道路建設	更埴市(農林課)

調 査 期 間	調査面積	調査費用	備 考
H10・4・8～4・30, H11・1・19	800 m ²	1,330,770円	
H10・4・16～6・24	1,800 m ²	6,340,580円	H11調査実施予定
H10・9・17～H11・3・24 H10・11・4～11・27	190 m ² 100 m ²	4,511,514円	H11・12調査実施予定
H10・11・16～11・30	100 m ²	488,641円	
H11・3・23～3・31	50 m ²	469,838円	
H10・4・8～H11・3・24		15,000,000円	H11報告書刊行予定
H10・6・10, 9・4	トレンチ2		
H10・8・10, 8・20	トレンチ3		
H10・8・21, H11・2・3	トレンチ3		
H10・11・10	トレンチ3	76,650円	H11調査実施予定
H10・11・12	トレンチ1	37,800円	
H10・12・9, H10・12・15	トレンチ1		
H10・12・25, H11・1・13	トレンチ2		
H10. 4. 1			
H10. 4. 30			
H10. 5. 14			
H10. 7. 27			
H10. 8. 10			
H10. 8. 17			
H10. 10. 12			
H10. 10. 12, 10. 19			
H10. 10. 13			
H10. 11. 16			
H10. 11. 18			



第2図 更埴市川西地区調査位置図 (1:25,000)



第3図 更埴市川東地区調査位置図 (1:25,000)

1 更埴条里水田址 発掘調査

I 調査の概要

第1節 概要

- 1 調査遺跡名 更埴条里水田址こしほくじょうみづのり (市台帳No.29 調査記号SRM)
- 2 所在地及び 更埴市大字屋代字返町507
土地所有者 塩入和一
- 3 原因及び 公共事業=物産館建設工事
事業者 更埴市(農林課)
- 4 調査の内容 発掘調査(調査面積約800㎡)
- 5 調査期間 平成10年4月8日～平成10年4月30日 平成11年1月19日
- 6 調査費用 1,330,770円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
調査参加者 猿渡久人 柏尾正善 国光一穂 久保啓子 神戸富子 高野貞子 富沢豊延
中村文恵
事務局 文化課長 坂口寛子 文化課主幹 下崎雅信
文化財係 佐藤信之 小野紀男
- 8 種別・時期 条里水田跡 平安時代
- 9 遺構・遺物 水田跡 平安時代 1面
土器片 縄文時代晩期～近世 コンテナ 1箱

第2節 調査の経過

平成9年9月に更埴市農林課より、物産館の建設についての通知があったため、市教育委員会で発掘調査が必要であるとの意見書を添付し、県教育委員会へ提出した。10月に入り、県教育委員会より発掘調査を実施して保護に当たるよう通知があった。10月30日、市農林課より発掘調査の依頼があり、協議の結果、建物建設部分は発掘調査を行い、駐車場部分は掘削が遺構面まで達しないため、立会調査で保護に当たることとなった。

平成10年に入り、4月6日発掘調査の報告を提出し、8日から現場調査を開始した。途中大雨により現場が水没する被害もあったが、4月30日、無事現場作業を完了した。

平成11年1月19日、駐車場部分の掘削を行うとの連絡があり立会調査を行った。調査の結果、掘削部分に畦畔があれば上部を削平する可能性があるため、現場で畦畔の位置を確認したが、掘削部分には存在しないことが分かった。

第3節 調査日誌

平成10年4月8日 重機入れ表土除去

- 10日 ベルトコンベアーを入れ畦畔の検出を始める
- 16日 14日からの大雨により現場水没したため、排水作業に追われる
- 17日 測量用の基準杭設定、実測作業を始める
- 23日 平安水田面の調査完了、全体写真撮影
- 24日 平安水田面にトレンチを入れ下部の遺構検出を始める
- 30日 現場作業完了し、機材の撤収を行う

平成11年1月19日 駐車場部分立会調査

II 遺跡の環境

更埴条里水田址は、北側は千曲川東岸の自然堤防によって、また南側は善光寺平南端を画する山々によって囲まれた標高355m前後の後背地に広がっている。この後背地は現在も「屋代田んぼ」と呼ばれ、更埴市最大の田園地帯となっている。

当該遺跡は、1961年から1964年に国内初ともいえる条里地割の総合学術調査が行われ、埋没条里水田の存在が明らかとなった。その後、馬口遺跡や、北中原遺跡の調査が行われ、埋没水田の地割りが「半折型」を基本とすることが指摘されている。また館長野原埋蔵文化財センターによって行われた上信越自動車道建設に伴う発掘調査でも、同様の結果が得られている。

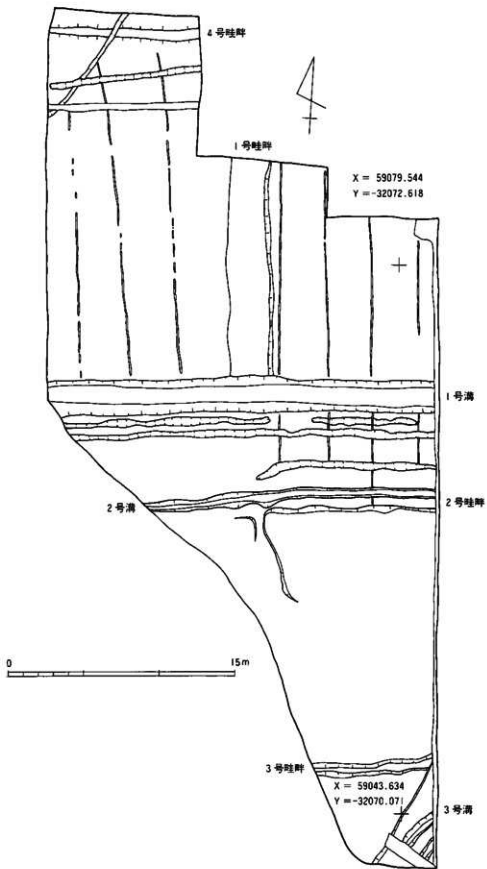
水田址北側の自然堤防上は、屋代遺跡群が、東西3.1km、南北1kmにわたって広がっており、弥生時代から中世に至る集落跡や居館跡が検出されている。また上信越自動車道の調査では、国符・郡符木簡など多数の木簡が出土し、官衙の存在が想定されている。さらに地表下約6mからは、縄文時代中期の集落跡が検出され、屋代遺跡群に対する評価は大きく変わっている。

南側を画する山々には、森將軍塚古墳を始めとする古墳が集中しており、山麓部分には縄文時代晩期から平安時代の集落が検出されている。

今回の調査地点は、水田跡の南側で山麓から約200mにあたり、森將軍塚古墳の直下に位置している。



第4図 発掘調査風景



第5图 遺構全体図

III 遺構と遺物

遺 構

調査地全面から僅かな砂層を挟んで水田跡を検出したが、地表下25~50cmと浅いため畦畔の上部は耕作やほ場整備の際削平されており、良好な状態ではなかった。また、水田跡にもトレンチを入れ、下部の調査を行ったが、縄文時代晩期から古墳時代の遺物が僅かに出土したものの、遺構の検出はなかった。

1号畦畔

調査区ほぼ中央を南北に伸びる畦畔で、幅は3m程である。畦畔の東側では10cm程の立ち上がりがあるが、西側では水田面が10cm弱高いため明確な立ち上がりはない。本来2号畦畔の南側にも伸びていたものと思われるが、明確な形では残っていない。水田面を覆う砂層が畦畔の西側をも覆っていることから、本来あまり高さはなかったものと思われる。

2号畦畔

調査区中央南寄りを中心に東西に伸びる畦畔であるが、西側が上部が削平されていて明確ではない。中央部分を2号溝が流れており、幅1.5m、高さ20cmと幅1m、高さ20cm程の畦畔が2本並ぶ形状となっている。上信越自動車道の調査の際、東側延長線上で検出された畦畔も同様である。

3号畦畔

調査区南側で検出された畦畔で、東西に伸びている。幅は基底部で約1mを測る。上部に平坦な面はなく、高さは10cm程である。

4号畦畔

調査区北側で検出された東西に伸びる畦畔で、幅は1.5m程と思われるが、上部が削平されているため明確ではない。トレンチを入れ下部の調査を行ったが、付属する溝などはなかった。

1号溝

調査区中央を東西に伸びる溝で、耕作土を取り除くと検出でき、幅3m、深さは70cm程であった。この溝は西から東へ流れていたほ場整備前の水路であり、昭和38年の地図でその存在を確認できる。

2号溝

2号畦畔中央を東西に伸びる溝で、水田跡を覆う砂層を覆土に持つ。断面は逆台形状で、底部で幅45cm、深さは30cmを測ることができる。

3号溝

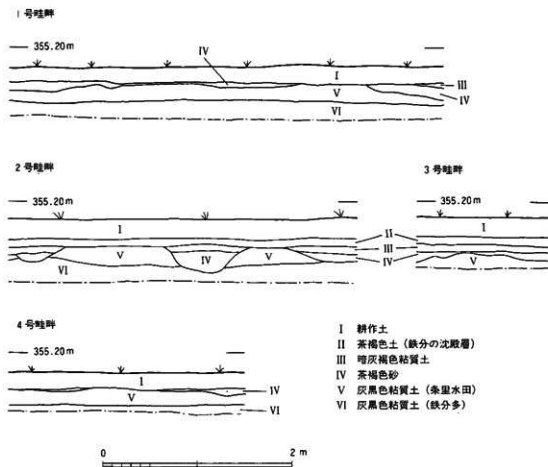
調査区南端より検出された溝で、3号畦畔を切って構築されている。1号溝同様にはほ場整備前の地図にその存在を認めることができる。

その他、2号畦畔の北側には3m程の間隔で、南北に伸びる幅10cm程の掘り込みが7本、また、北側突出部には石を詰めた暗渠排水の跡などが検出されているが、いずれも現在の水田に関連する施設や、耕作の跡と思われる。

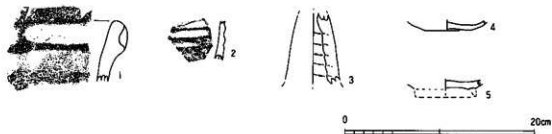
遺物

出土遺物は少なく総数で100点程である。うち約30片は近世陶器で、残りの大半は土器片であるが、小破片で磨耗が進んでおり時代判定のできないものが多い。

1～3は縄文時代の土器で、1は口縁部に2条の平行した突帯を持ち、橋状把手の退化ともいえる粘土紐で結んでいる。2は口縁直下の破片で、数条の低突帯が巡っている。3は古墳時代の高杯脚部の筒部分で、湾曲しながら膨らんで裾部となる。4・5は土師器杯の底部で、4は糸切り痕を残しており、5は高台が取れた痕跡があり、内面黒色処理が施されている。



第6図 畦畔断面図

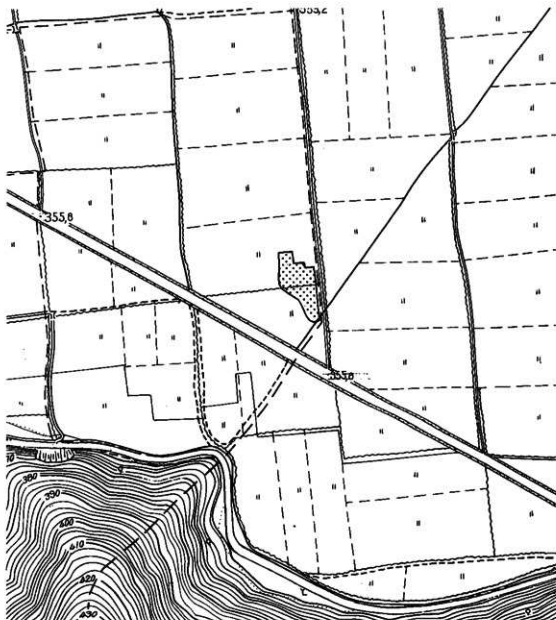


第7図 出土遺物

IV まとめ

1 条里地割について

今回の調査では4条の畦畔が検出された。この内1号と2号畦畔は坪を画する畦畔と考えられ、2号畦畔の東側延長線上では、上信越自動車道調査地点（SC202）、ふるさと農道調査地点（6-3T）でも畦畔が検出されている。ただ南北に伸びる1号畦畔は、上信越自動車道調査地点で検出されている大畦畔（SC201）との間隔が約120mと広い。ふるさと農道の調査では南北に坪を画する13条の畦畔が検出されているが、間隔は平均108.6m、最大でも111.9mでほぼ1町の間隔となっている。南西約100mにある森將軍塚古墳館の発掘調査で検出された畦畔は、こうした条里の区画に合っていないため条里区画を持つ南西隅の畦畔になる可能性がある。



第8図 調査位置図 (地図昭和38年9月 1:3,000)

2 水田跡下層の調査

水田下層から縄文時代晩期の土器が数片出土している。今回の調査地点の南西約300mにある県立歴史館建設の際実施した屋代清水遺跡の調査では、晩期米式を主体とする土器群のほか、掘立柱建物跡などが検出されている。今回の調査では遺構の検出はなかったが、出土した土器は同時期であり、かなり広範囲に分布域を持つことがわかる。縄文時代最終末から弥生時代への移行期ともいえる段階の遺物出土は、水田跡が広がる後背地の利用と密接な関係を持つことは言うまでもなく、今後は周辺を含めた広範囲の調査が必要といえる。



第9図 畦畔検出位置図 (1:5,000)



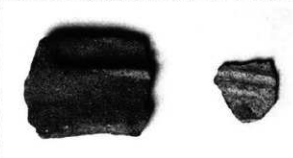
調査地遠景



調査区全景



左：1号畦畔断面
右：3号畦畔断面

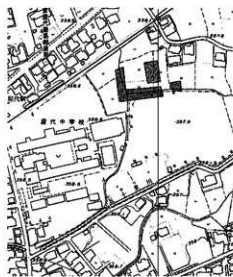


左：4号畦畔断面
右：水田面下層出土物

2 大塚遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 大塚遺跡
(市台帳No31-1 調査記号OTK)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(学校教育課)
- 4 調査の内容 発掘調査(調査面積約1,800㎡)
- 5 調査期間 平成10年4月16日～平成10年6月24日
- 6 調査費用 6,340,580円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡・水田跡 平安時代
- 9 遺構・遺物
住居跡 平安時代 14棟
水田跡 平安時代 1面
土坑 平安～中世 5基
流路 平安時代 1基
土器片 平安時代 コンテナ 10箱

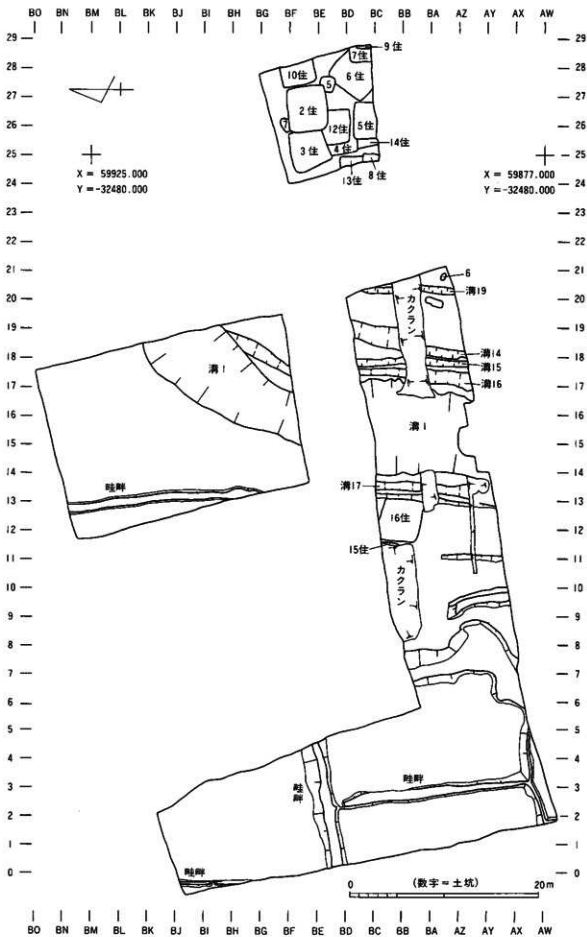


第10図 大塚遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査は更代中学校改築に伴い、平成9年度より実施したものである。今年度は校庭北側の水田内の調査を主に実施した。調査区のはほぼ中央からは、昨年度検出した流路の延長を検出した。最も広いところで幅10m以上あり、深さも最大1.5m以上測ることができる。この流路を境として東側から住居跡12棟を検出した。西側からは水田跡を検出している。この水田跡は厚い砂層で覆われており、最大2.5mの厚さを測る。ほぼ東西に走る幅約2.5mの大畦畔は、これまで更埴条里水田址などの調査で検出された大畦畔とは約15mの食い違いが認められるため、畔を画する畦畔とは考えられない。しかしながら、畦畔の走向がほぼ一致するなど条里的地割を意識した作りである可能性が残っている。また、この水田土壌の下層からも平安時代の住居跡を2棟検出しており、流路と併せて計画的に水田面が造成された可能性がある。

なお、本調査は平成11年度に継続し、報告書を刊行する予定である。

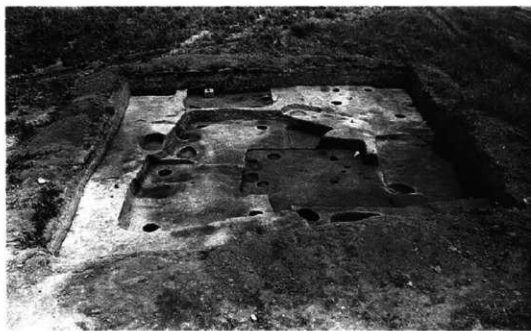


第11図 大塚遺跡遺構全体図

大塚遺跡
調査区全景



集落部分全景
(南側より)



調査風景
(西側より)





大塚遺跡
2号住居跡
(南側より)



16号住居跡
(南側より)



1号溝跡
(南側より)

3 市内遺跡 発掘調査

I 調査の概要

1 調査遺跡名	屋代遺跡群 (市台帳No.31-21) 松田館跡 (市台帳No.214)
2 所在地及び 土地所有者	屋代遺跡群 更埴市大字両宮字町浦493 他 松田孝二郎 鎌田佳治 松田館跡 更埴市大字八幡字森下3033 松田孝弘
3 原因及び 事業者	学術調査 更埴市(文化課)
4 調査の内容	屋代遺跡群 発掘調査(調査面積190㎡) 松田館跡 発掘調査(調査面積100㎡)・ 地形測量
5 調査期間	屋代遺跡群 平成10年9月16日～平成11年3月24日 松田館跡 平成10年11月4日～平成10年11月27日
6 調査費用	4,511,514円
7 調査主体者 担当者	更埴市教育委員会 佐藤信之
8 種別・時期	屋代遺跡群 集落跡 弥生～平安時代 松田館跡 居館跡 中世～近世
9 遺構・遺物	屋代遺跡群 住居跡 弥生～平安時代 15棟 出土遺物 土器片 弥生～平安時代 コンテナ11箱 瓦片 奈良時代 コンテナ1箱 松田館跡 堀・土塁・道路状石敷 中世～近世 各1基 出土遺物 陶磁器・土器皿 中世～近世 コンテナ1箱



第12図 松田館跡調査位置図

II 調査の所見

1 屋代遺跡群

上信越自動車道建設に伴い実施された調査の際、国符・郡符を含む多数の木簡が出土しており、周辺に官衙が存在する可能性が指摘されているため、その存在を確認し保護することを目的として、平成8年度から調査を行っている。

今年度は、上信越自動車道の発掘調査の際、大型の掘立柱建物跡が検出された部分の東側(G地区)と長野電鉄河東線両宮駅南西約50m付近(屋代寺地区)の2か所の調査を行ったが、直接官衙に関連する遺構の検出はなかった。

G区の調査では、平安時代の住居跡1棟が検出されており、注目されるのはカマドの構築材として

瓦が使用されていた点である。屋代遺跡群周辺では古くから布目瓦の出土が知られており、定禪寺であった屋代寺の推定地とされている。

今までの調査で出土している瓦は、軒丸瓦が六葉の単弁式蓮花文で、凸面は格子目の叩きで整えている。これに対して、今回の調査で出土した瓦には軒瓦は含まれていなかったが、縄目叩きで接合部が有段となるもので、時代的に若干下るものと思われる。

両宮駅南西の調査区は、昭和37年に行われた調査で礎石建物跡が検出され、屋代寺跡推定地とされる地域内に設定した約140m²の調査区であったが、瓦の出土はあったものの寺院・官衙に関連する遺構の検出はできなかった。

詳細な検討は行っていないが、古墳時代から平安時代の住居跡14棟が検出されている。

14号住居跡は、今回の調査で検出された最も古い住居跡で、簡拙波状文が施された甕などを伴っていたが、出土した遺物の多くは北陸系土器であり、良好な状態で出土している。十数個体あり、有段口縁で口縁部外面に縦凹線を施した甕のほか、赤色塗彩され杯屈曲部に縦凹線が施された高杯なども出土している。これだけまとまって北陸系土器が出土した住居跡は、県内では見聞しておらず、今後当該期の研究に大きな影響を与える良好な資料になるとと思われる。

1号住居跡は、出土遺物から9世紀前半と考えられるが、住居の北側に炭化物の広がりがあり、その中から土師器製カマドが出土している。善光寺平では初めての出土であり、県内でも数例しか出土していない。

2 松田館跡

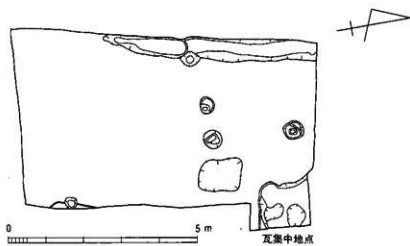
松田館は、式内社である武木別神社の神官屋敷で、中世の居館を利用しており、周囲に土塁や堀の一部が残っている。更地市では、この活用について現在調査を進めている。今回は館跡全体の地形測量を行い、あわせて、土塁と裏長屋の内側部分の発掘調査を行った。

土塁は西側部分にトレンチを入れて調査を行った。調査の見所では大きく2回に分けて築造されており、当初基底部で8m程であったものを内側に盛土を行い強化している。当初の盛土内からは土器皿が出土しており、中世まで遡る可能性があるが、内側の盛土からは近世陶器が出土しており、江戸時代以降のものと思われる。また、土塁の外側からは幅約5m、深さ1.8m程の堀が確認されている。また、堀の底からも近世陶器が出土していることから、堀は近世まで存在していたことが分かる。

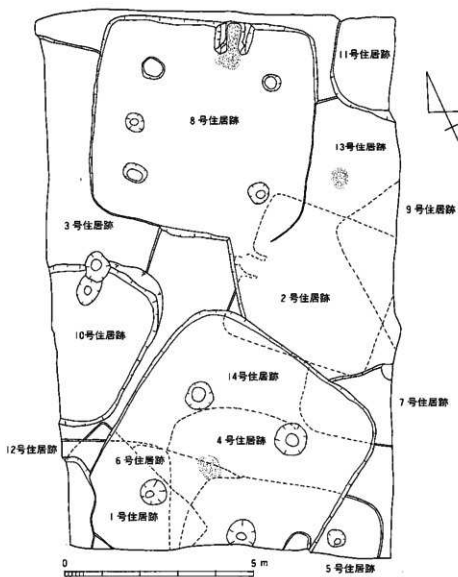
裏長屋の内側の調査では、地表から約60cmに幅60~70cmの東西に伸びる道路状の石敷が検出されている。出土遺物がないため明確な時代決定はできないが、中世の遺構と考えられ、敷地内に中世の遺構が残っている可能性がある。



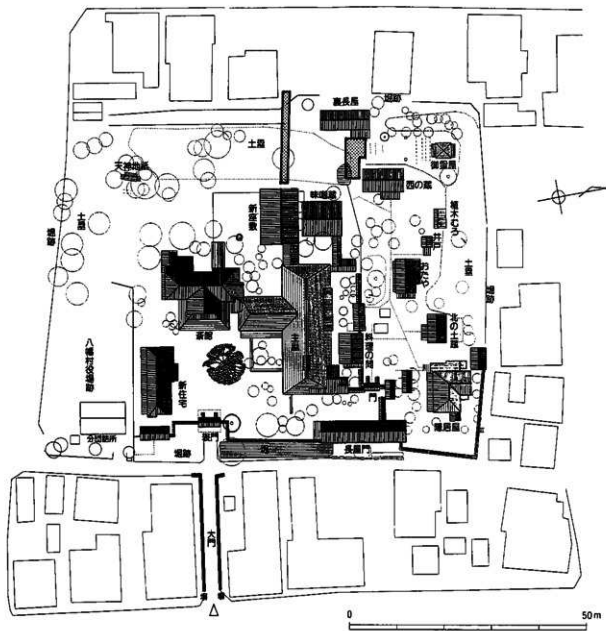
第13図 屋代遺跡群調査位置図 1. G地区 2. 屋代寺地区



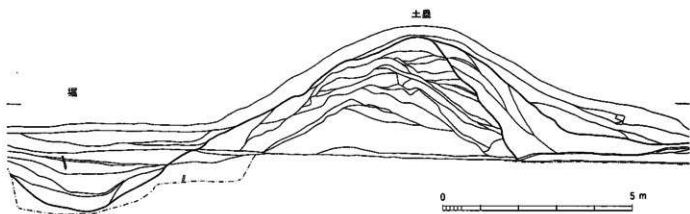
第14图 屋代遺跡群G地区全体图



第15图 屋代遺跡群屋代寺地区遺構全体图



第16図 松田館跡調査地



第17図 松田館跡土層断面図

屋代遺跡群屋代寺地区
14号住居跡出土遺物





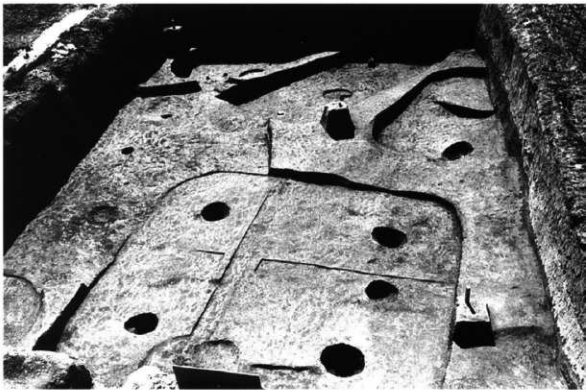
調査区全景
1. G地区
2. 屋代寺地区
平成10年4月撮影



G地区全景



G地区瓦出土状態



屋代寺地区全景



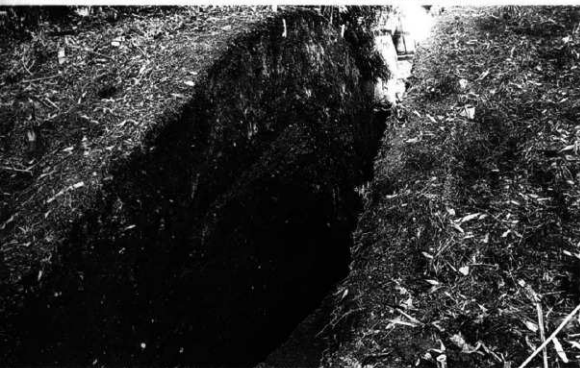
調査風景



屋代寺地区14号住居跡



松田館跡土層トレンチ



松田館跡土層断面



左：裏長屋門前調査地
右：同下層石敷

4 一本松古墳 発掘調査

I 調査の概要

第1節 概要

- 1 調査遺跡名 一本松古墳 (市台帳No77 調査記号IPM 2)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
原因及び
事業者 更埴市 (都市計画課)
- 3 調査の内容 発掘調査 (調査面積約100㎡)
- 4 調査期間 平成10年11月16日～平成10年11月30日
- 5 調査費用 488,641円
- 6 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
調査参加者 宇都宮義久 春日有子 金井順子 金田良一 国光一穂 小林昌子
小松よね 松林深水 宮崎恵子 宮崎米雄 柳沢悦子
- 7 事務局 坂口寛子 下崎雅信 佐藤信之 小野紀男
- 8 種別・時期 古墳 古墳時代
遺構・遺物 古墳 古墳時代 1基
土坑 中世 1基
土器片 古墳～奈良時代 コンテナ 1箱

第2節 調査の経過

稲荷山公園建設に伴い、平成8・9年度に湯ノ崎遺跡及び一本松古墳の発掘調査を実施し、一本松古墳については現状のまま保存することとなっていた。平成10年9月、公園建設計画の変更が行われ一本松古墳の上を園路が通ることとなり、破壊の危機に瀕したため平成10年11月県教育委員会を交えて保護協議を行った。その結果、一本松古墳の墳丘範囲を確認するため発掘調査を実施し、それに基づいて保護を行うこととなった。工事着手が間近に迫っていたため、ただちに調査の準備にかかり、11月16日より調査を開始し、11月30日終了した。平成10年12月に入り、調査結果に基づき改めて市都市計画課と協議を行い、一本松古墳の墳丘範囲を迂回させて園路を建設することとなった。また、公園整備の中で一本松古墳の活用が図られるよう今後協議を継続することとなった。

II 遺跡の環境

発掘調査地は、東経138度6分4秒、北緯36度32分1秒、海拔384m付近に位置する。遺跡は千曲川が北西から北東に大きく流れを変える頂点部分の左岸に当たり、篠山から南東に延びる支尾根上に占地している。篠山山麓には、越将軍塚古墳や塚穴古墳などの古墳が築造され、5世紀代から7世紀代にかけての古墳が散在している。佐野川、蟹沢川、荏沢川等の中小河川によって開析された扇状地上には、元町遺跡、治田池遺跡、桑原遺跡群などの集落遺跡が所在しており、縄文時代から平安時代にかけての遺構が検出されている。

調査地周辺では、平成8・9年度に稲荷山公園建設に伴い湯ノ崎遺跡の発掘調査が行われ、5世紀から7世紀にかけての古墳3基が検出され、一本松古墳と合わせ「一本松古墳群」として報告を行った。一本松古墳は昭和59年度に更地市史編纂に伴い横穴式石室の清掃調査及び実測が行われ、平成8年度には、墳丘範囲を確認するためトレンチ調査を実施した。今回、墳丘範囲を更に詳細に確認するため全面発掘調査を行った。

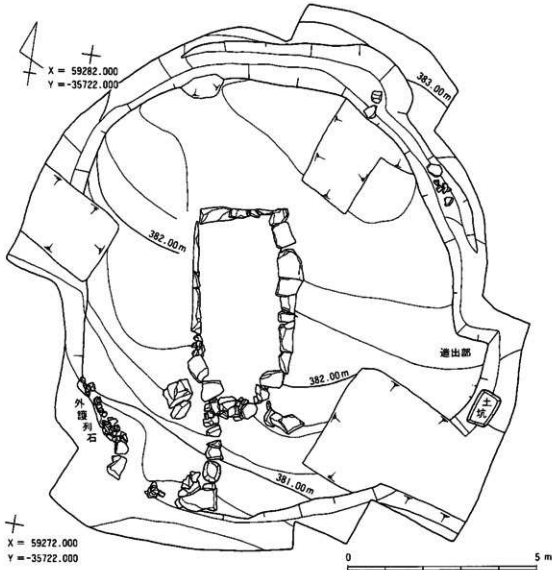


1 一本松古墳 2 越将軍塚古墳 3 塚穴古墳 4 元町遺跡 5 治田池遺跡 6 湯屋遺跡
第18図 一本松古墳位置図 (1:20,000)

III 遺構と遺物

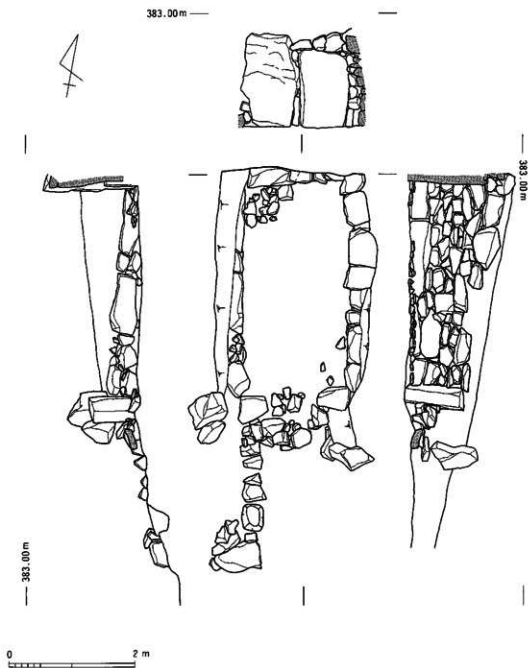
墳丘：古墳は北から南に向かって緩く傾斜する斜面に所在し、現況は平坦面である。開墾時に地形がかなり改変されたらしく、古墳の南西側では地山面まで1.5m程掘り下げなければならなかった。北側からは周溝状の落ち込みを検出した。この落ち込みは緩く弧を描き、延長10m程を測る事ができる。東側からは推定幅2.7m、長さ1.3mの造出を検出している。遺物はこの造出付近より集中的に出土している。この造出は北半部を地山の削り出しによって成形し、南半部は盛土によって形成されているが、本来どの程度の高さがあったものかは不明である。南側からは墓道の基底石を検出した。南西側からは外覆列石と考えられる石列を検出している。この部分は地山面が最も低くなる所であり墳丘の大部分が盛土によって構築されているため、土留的な機能を持っていたものと考えられる。この外覆列石は、一抱えほどの石を4個並べ、その上に人頭大～拳大の石を数段積み上げている。

これらのことから一本松古墳は直径約10.5mの円墳であり、東側に造出を持ったものであることが明らかとなった。また墳丘高については、石室の天井石が失われているため推測の域を出ないが少なくとも3m以上あったものと考えられる。



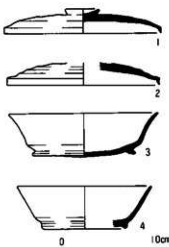
第19図 一本松古墳遺構全体図

主体部：これまで報告されてきたように、本古墳の主体部は主軸をN-11°-Wに持つ両袖型の横穴式石室である。今回の調査によって、これまで1.3m程度とされていた羨道の長さが墳端部まで2.7mに渡って延びていることが判明した。本古墳の主体部は全長5.9m、玄室長3.2m、同幅1.8m、高さ1.8m、羨道長2.7mの規模を持ったものであることが明らかとなった。検出した羨道部は右側だけであるが基底石を残すのみであり、一部抜き取られているものもある。小口面を揃えて壁面としているが、羨門部のみ大型の石を使用し、羨道部には人頭大の石を6個前後使用している。玄室の基底石と比べて非常に貧弱な印象を受けるものである。また、羨門部から玄門部に向かって緩やかに上がっているが、途中で平坦面を作り出しているように見受けられる。



第20図 一本松古墳石室展開図

遺物：土師器、須恵器が出土しているが、出土量は少ない。また、土師器は小破片が多く、図化できたものは須恵器4点のみであった。いずれも造出付近より出土しており、墓前祭祀に伴うものであると考えられる。第21図1・2は杯蓋である。1は天井部の2/3程をログロナデ、残りを回転ヘラケズリによって成形している。ツマミはリング状である。2も1と同様であるが、端部を強くナデており段が認められる。3・4は杯身である。3の口縁は外反気味に立ち上がり、扁平な高台が付く。底部は回転ヘラ切りである。4も高台が付くが、口縁は直線的に立ち上がる。



第21図 一本松古墳出土遺物

本古墳から出土した須恵器は、杯蓋の端部が断面三角形を呈すること、杯身底部の切り離しがヘラ切りにより行われていることなどから、奈良時代前半期の所産であると考えられる。

IV まとめ

今回の調査は墳丘範囲の確認を行うものであり、当初の目的を達成することができた。古墳は直径10.5mの円墳であり、東側に幅2.7m、長さ1.3mの方形の造出が付属するものであることが明らかとなった。また、これまで全長4.5m前後と考えられていた主体部が約6mの規模を持ったものであることが判明し、一本松古墳の評価を改めて考え直す資料を得ることができたように思われる。墳丘の周囲からは若干の遺物の出土があり、本古墳の築造年代を考える資料となるだろう。

一本松古墳出土と伝えられる遺物には金環、土製勾玉、直刀、八稜鏡などがある。このうち八稜鏡については10世紀前後の年代が与えられるため、古墳への2次的な埋葬に伴うものである可能性が指摘されている。その他の遺物についても古墳の築造年代を直接考えることの難しいものであり、横穴式石室の形式から7世紀後半の築造と考えられてきた。今回の調査で出土した須恵器は、造出付近より出土したものであり墓前祭祀に伴うものである可能性がある。この須恵器には8世紀前半という年代が与えられるため、少なくともこの時期には古墳が築造されていたものと考えられる。墓前祭祀が追葬時に行われたものであるかどうか現時点では不明であるが、これを追葬時に行われたものと仮定すると、一本松古墳の築造年代はこれよりややさかのぼった7世紀後半から末にかけてと考えても矛盾はないだろう。今回の調査で得られた資料から考えると、8世紀前半までは古墳に伴う墓前祭祀が行われていたと考えられ、これは8世紀段階においても追葬が行われた可能性が指摘できるだろう。

一本松古墳群では5世紀前半から7世紀後半までに少なくとも4基の古墳が築造され、追葬は8世紀段階まで行われていたものと考えられる。平成9年度に調査を行った3号墳からは武器、馬具を始めとする豊富な副葬品が出土しており、被葬者の性格を窺い知ることのできる資料となっている。これまでのところ、一本松古墳群の築造に関わったと考えられる集落遺跡は見つかっていないが、古墳群の南側に展開する元町遺跡からは6世紀代の遺物の出土が知られており、一本松古墳群との関連性を考えることができるだろう。今後の調査に期待したい。

最後に今回の調査に当たり、関係の皆さんの御協力に対し深く感謝申し上げます。



一本松古墳
調査前風景
(南側より)



調査区全景
(南側より)



調査風景

一本松古墳
周溝状落ち込み
(南側より)



造出部
(東側より)



外護列石
(南西側より)





一本松古墳
主体部全景
(南側より)



狭道部基底石
(東側より)



1



2



3



4

出土遺物

5 倉科水田址 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 くろがひのいし
倉科水田址
(市台帳No211-2 調査記号KRS)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市(福祉課)
- 4 調査の内容 発掘調査(調査面積約50㎡)
- 5 調査期間 平成11年3月23日～平成11年3月31日
- 6 調査費用 469,838円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
調査参加者 井手義文 大久保修身 金田良一 国光一穂 西村久林 柳沢悦子
事務局 坂口寛子 下崎雅信 佐藤信之 小野紀男
- 8 種別・時期 水田址 平安時代
- 9 遺構・遺物 水田址 時期不明 1面



第22図 倉科水田址調査位置図

II 調査の経過

平成11年1月、市福祉課より倉科地籍において入浴施設の建設を計画しているとの連絡があった。市教育委員会では、当該地は倉科水田址として周知されている埋蔵文化財包蔵地であるため、発掘調査が必要である旨報告を行い、2月10日、57条の通知があった。

当該工事は平成10年度事業として行われ、着工が間近に迫っていたため、ただちに調査の準備に取りかかり、3月23日より重機による表土剥ぎを開始した。3月24日より作業員が入り検出作業を開始し、旧耕作土の下層から水田面と考えられる層序を1面検出した。出土遺物がまったくなかったため水田址の時期は不明である。出水があったためこれ以上の掘り下げは断念し、3月26日、現場における調査を終了した。3月31日埋め戻しを行い、作業を完了した。

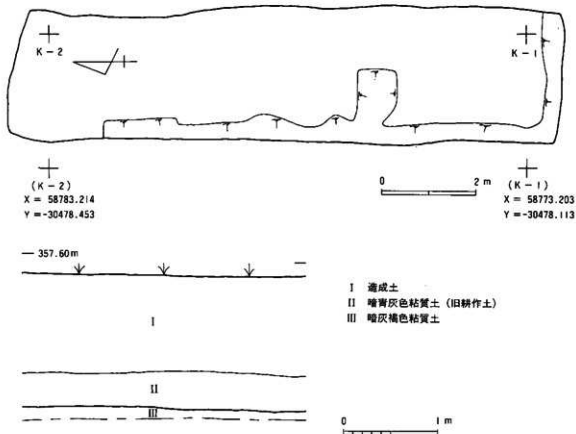
III 調査の所見

調査地は東経 138度 9分43秒・北緯36度31分45秒、海拔356m付近に位置し、更埴市大字倉科古屋に所在する。周辺では、平成4年度に倉科地区農業集落排水事業に伴い発掘調査が行われ、砂層に覆われた平安時代の水田跡が検出されている。

検出した遺構は、水田面と考えられる層序1面のみである。この水田面と考えられる層序は、旧耕作土下約40cmから検出したものであり、上層には砂層の堆積は認められなかった。下層は出水のため調査できなかったが、少なくとも50cm以上粘質土が堆積しており、砂層の堆積は認めることはできなかった。また調査範囲が限られていたため畦畔等の構築物についても検出することはできなかった。

本調査により検出された水田面の時期については不明であり、また農業集落排水調査地点の層序とも相違が認められる。農業集落排水調査地点の調査では、現耕作土と平安時代の水田面との間に、少なくとも2面の水田面が確認されている。今回検出した水田面がどの水田面に対応するものであるか断定することはできないが、砂層が認められないことなどから平安時代の水田面である可能性は低いものと考えられる。

今回の調査では明らかに平安時代と考えられる水田面の検出はできなかったが、水田面を検出することができた。調査面積も50m程度と非常に限られた範囲の調査であったが、このような小さな調査成果の積み重ねが倉科水田址の全容解明につながっていくものと考えられる。



第23図 倉科水田址全体図及び土層断面図

倉科水田址
調査区全景
(北側より)



土層断面
(東側より)



調査風景



6 屋代遺跡群 整理調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群 (市台帳No31 調査記号YD)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字両宮字町浦
長野県
- 3 原因及び
事業者 更埴建設事務所
公共事業=土ロバイパス建設工事
- 4 調査の内容 整理調査
- 5 調査期間 平成10年4月8日～平成11年3月24日
- 6 調査費用 15,000,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
調査協力 東京学芸大学文化財科学学科
- 8 種別・時期 集落跡 弥生～平安時代

II 調査の所見

平成10年度は整理作業を行い、平成11年度に報告書を刊行する予定で、平成10年4月8日、委託契約を締結し作業を開始したが、更埴建設事務所の依頼により、10年度に報告書のうち、写真図版編を刊行することとなったため、平成10年8月20日変更契約を締結した。

平成7年から3か年実施された発掘調査で検出された遺構は、住居跡430棟以上、掘立柱建物跡10棟、土坑310基以上が確認されている。遺構の重複が激しく切り合い関係等詳細は現在整理中であるため、時代については出土遺物だけで判断した。したがって今後変動があるが、全体的な傾向として、自然堤防北側縁辺部に弥生時代から古墳時代の遺構が集中し、奈良・平安時代になると南側へと広がっていく。また時代毎に遺構の集中する地点が異なっており、自然堤防上を集落が移動していたことが伺える。

また、出土遺物も復原された土器が約1000個体あり、その他、土製品・金属器・石器・骨角器・木製品・玉類・唐三彩などが出土している。特に骨の遺存状態は良く、骨角器の他、獣骨が多数出土している。

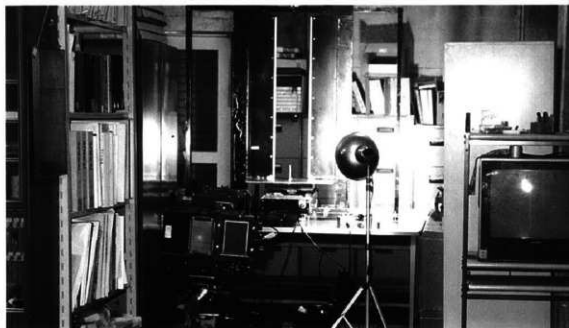
土ロバイパス建設に伴う発掘調査検出遺構一覧表

	竪穴住居跡	掘立柱建物跡	土 坑	溝	備 考
弥生時代中期	3	0	0	0	
古 墳 時 代	169	0	82	1	
古 代	174	10	85	24	
中 世 以 降	0	0	10	2	
不 明	87	0	141	6	
計	433	10	318	33	

平成11年3月現在の数で変更があります。



整理作業風景



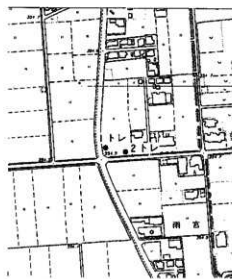
図化用遺物撮影風景

7 生仁遺跡

試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 生仁遺跡 (市台帳No.31-11)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字雨宮字生仁1506-1
榑西澤製作所
- 3 原因及び
事業者 榑西澤製作所
- 4 調査の内容 試掘調査 (トレンチ2か所)
- 5 調査期間 平成10年6月10日・平成10年9月4日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 集落跡 弥生~中世
- 9 遺構・遺物 住居跡 平安時代 1棟
土坑 中世 2基
土器片 平安時代 十数点



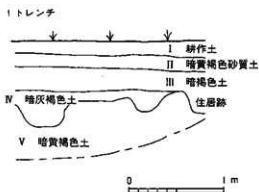
第24図 生仁遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査地は、昭和63年度に洪水防除事業に伴い発掘調査が実施された地点の西側約50mに位置している。建設予定地内に2か所の試掘坑を設定し、調査を行った。

西側の1トレンチからは、地表下約50cmより平安時代の住居跡と考えられる落ち込みを検出し、土器片が10数点出土した。東側の2トレンチからは中世の井戸跡と考えられる落ち込みを検出している。

当該工事は、約80cmの盛り土を行って建物を建築するものであり、基礎部分も盛り土内に納まるため直接埋蔵文化財に影響を与える事はない。このため、9月4日に工事に合わせ立会調査を実施して保護に当たった。



第25図 生仁遺跡土層断面図

8 日ノ尾遺跡

試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 日ノ尾遺跡 (市台帳No.36)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字土口字日ノ尾576
ホクト産業㈱
- 3 原因及び
事業者 民間事業=工場建設
ホクト産業㈱
- 4 調査の内容 試掘調査 (トレンチ3か所)
- 5 調査期間 平成10年8月10日・平成10年8月20日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡 弥生~中世
- 9 遺構・遺物 なし



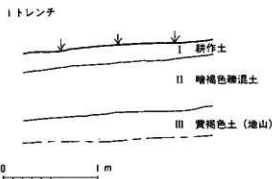
第26図 日ノ尾遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査地は西向きの傾斜面であり、現況は畑地である。これまでの周辺の調査からは埋蔵文化財は確認されていなかったが、当該地の北東約15mには、横穴式石室を内部主体に持つ日ノ尾古墳があり、周囲に古墳が存在していた可能性があるため、試掘調査を実施した。

工事予定地内に3か所の試掘坑を設定して調査を行ったが、20cm程の畑の耕作土下は山からの流出と考えられる暗褐色の礫混じり土であり、地表下80cm程で地山の岩盤になった。

埋蔵文化財包含層は確認されなかったため、8月20日、工事に合わせ立会調査を実施した。



第27図 日ノ尾遺跡土層断面図

9 古道遺跡

試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 古道遺跡 (市台帳No.31-8)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字屋代字古道767 榊大平商事
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地造成 榊大平商事
- 4 調査の内容 試掘調査 (トレンチ3か所)
- 5 調査期間 平成10年8月21日・平成11年2月3日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 集落跡 弥生~中世
- 9 遺構・遺物 水田面 時期不明 2面

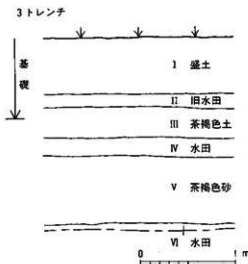


第28図 古道遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査地は屋代遺跡群内の一角を占め、隣接する北陸新幹線建設地における発掘調査では、平安時代の住居跡が検出されている。

事業予定地内に3か所の試掘坑を設定し調査を行った。その結果、現地表下約105cmと195cmのところから水田面と考えられる土層を検出したが、住居跡等の遺構は検出されなかった。工事による掘削は80cm程であるため、立会調査により保護に当たることとし、平成11年2月3日工事に合わせ立会調査を実施した。



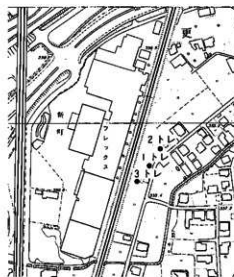
第29図 古道遺跡土層断面図

10 一丁田尻遺跡

試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 一丁田尻遺跡 (市台帳No.31-3)
- 2 所在地及び
更埴市大字屋代字一丁田尻1406-3 他
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
公共事業=新駅建設
事業者 更埴市 (政策推進課)
- 4 調査の内容 試掘調査 (トレンチ3か所)
- 5 調査期間 平成10年11月10日
- 6 調査費用 76,650円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 散布地 奈良~平安時代
- 9 遺構・遺物 水田面 時期不明 2面



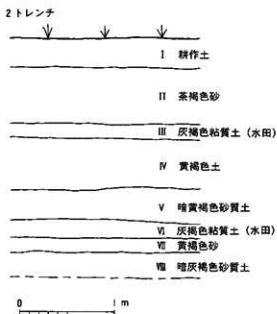
第30図 一丁田尻遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査地は、しなの鉄道新駅建設予定地であり南側の一部が一丁田尻遺跡として周知されている範囲となっている。平成11年度より事業が本格化するため、事前に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。

事業予定地内に3か所の試掘坑を設定し調査を行ったところ、いずれのトレンチからも地表下約90cmと190cmより、水田面と考えられる層序を確認した。上層の水田面は50~60cmの茶褐色の砂層に覆われていたが、出土遺物がなかったため時期は不明である。

事業実施前に本発掘調査が必要である旨、担当課に報告し協議を行ったところ、平成11年度に発掘調査を実施することとなった。



第31図 一丁田尻遺跡土層断面図

11 屋代遺跡群 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群 (市台帳No31)
- 2 所在地及び土地所有者 更埴市大字雨宮字北野763-2 更埴市
- 3 原因及び事業者 公共事業＝道路建設 更埴市 (建設課)
- 4 調査の内容 試掘調査 (トレンチ1か所)
- 5 調査期間 平成10年11月12日
- 6 調査費用 37,800円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡 弥生時代～中世
- 9 遺構・遺物 なし



第32図 屋代遺跡群調査位置図

II 調査の所見

調査地は長野電鉄雨宮駅前であり、東側約100mには雨宮廃寺跡が存在している。調査は、事業予定地内に試掘坑1か所を設定して行った。約30cmの腐植土を取り除くと近現代の盛土が確認でき、その下には厚く攪乱層が入り込んでいた。地表下約160cmで遺物包含層の可能性のある暗褐色土を確認したが、遺構・遺物の検出はなかった。190cmで地山の黄褐色土となった。

今回の試掘調査の結果、事業予定地周辺では埋蔵文化財が存在している可能性は少ないと考えられるが、周辺には雨宮廃寺跡などがあり、さらに詳細な調査が必要となる。



第33図 屋代遺跡群試掘風景

12 戸崎遺跡

試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 戸崎遺跡 (市台帳No28-6)
- 2 所在地及び
更埴市大字粟佐字戸崎1584-1 他
土地所有者 堀内篤雄
- 3 原因及び
民間事業=店舗建設
事業者 堀内篤雄
- 4 調査の内容 試掘調査 (トレンチ1か所)
- 5 調査期間 平成10年12月9日・12月15日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 9 遺構・遺物 なし

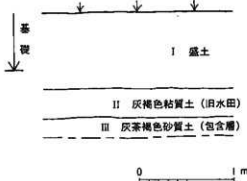
II 調査の所見

調査地周辺では、昭和52年に隣接する更埴郵便局建設に伴い発掘調査が行われ、古墳時代の住居跡が検出されている。

調査は、事業予定地内に試掘坑1か所を設定して実施した。約60cmの盛土があり、その下には造成前の水田と考えられる土層があった。地表下110cmで炭化物を含む灰茶褐色の粘質土を確認したが、遺構・遺物の出土はなかった。工事による掘削は50cmであり、埋蔵文化財へ与える影響はないと考えられるため、12月15日立会調査を実施し、保護に当たった。



第34図 戸崎遺跡調査位置図



第35図 戸崎遺跡土層断面図

13 町浦遺跡

試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 町浦遺跡 (市台帳No.31-21)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字雨宮字町浦365-5 他
①フジ総業
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地造成
①フジ総業
- 4 調査の内容 試掘調査 (トレンチ2か所)
- 5 調査期間 平成10年12月25日・平成11年1月13日
- 6 調査費用 重機負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 8 種別・時期 集落跡 平安時代～中世
- 9 遺構・遺物 土器片 2点



第36図 町浦遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査地周辺では、平成7年より国道403号線土口バイパス建設に伴う発掘調査が行われ、弥生～平安時代にかけての住居跡約430棟、大型の掘立柱建物跡などが検出されている。

調査は、事業予定地内に2か所の試掘坑を設定して行った。耕作土の下には約40cmの厚さでシルト質の土が堆積していて、その下層から炭化物を多量に含む層を検出した。この炭化物層より土器片2点が出土した。工事による掘削は40cmであるため、埋蔵文化財に与える影響はないので、立会調査により保護に当たることとし、平成11年1月13日立会調査を行った。



第37図 町浦遺跡試掘風景

14 北中原遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 北中原遺跡 (市台帳No.31-19)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字厘代字北中原902
翰飯島工業所
- 3 原因及び
事業者 民間事業=資材置場建設
事業者 翰飯島工業所
- 4 調査期間 平成10年4月1日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 水田跡 奈良~平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第38図 北中原遺跡調査位置図

II 調査の所見

当該工事は表土を約30cm除去し、その後碎石により造成を行うものである。掘り下げは現耕作土を僅かに掘り込んだだけであり、包含層には達していなかった。

15 更埴条里水田址

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 更埴条里水田址 (市台帳No.29)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字剛宮字中原258-1
安藤勝善
- 3 原因及び
事業者 民間事業=店舗建設
事業者 安藤勝善
- 4 調査期間 平成10年4月30日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 水田址 平安時代~中世
- 7 遺構・遺物 なし



第39図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

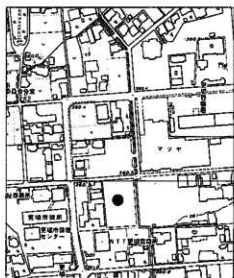
工事による掘削は60cm程であり、更埴条里水田址を広く覆う灰褐色の砂層内に止まっていたため、遺構・遺物の出土はなかった。

16 南沖遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 南沖遺跡 (市台帳No28-2)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字杭瀬下字南沖1608
上原博司
- 3 原因及び
事業者 民間事業=宅地造成
上原博司
- 4 調査期間 平成10年5月14日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第40図 南沖遺跡調査位置図

II 調査の所見

事業予定地は約50cmの盛土が認められ、その下は造成前の水田面となっていた。工事による掘削は70cmであり、包含層には達していなかった。

17 大穴遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 大穴遺跡 (市台帳No184)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=道路建設
更埴市 (建設課)
- 4 調査期間 平成10年7月27日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 集落址 古墳～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第41図 大穴遺跡調査位置図

II 調査の所見

調査地は、急傾斜地であり遺構・遺物とも検出されなかった。

18 法正寺遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 法正寺遺跡 (市台帳No.22)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字寂庵字法正寺969-2 他
群馬県畜産加工販売農業協同組合連合会
- 3 原因及び
事業者 群馬県畜産加工販売農業協同組合連合会
- 4 調査期間 平成10年8月10日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 集落跡 古墳～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第42図 法正寺遺跡調査位置図

II 調査の所見

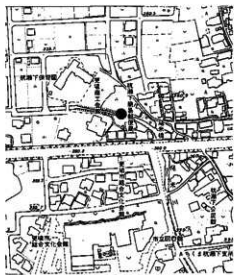
事業予定地内には約90cmの盛土が認められ、その下には造成前の水田が検出された。工事による掘削は160cmであったが、遺構・遺物の検出はなかった。

19 堂河原遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 堂河原遺跡 (市台帳No.140)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
事業者 更埴市 (都市計画課)
- 4 調査期間 平成10年8月17日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 小野紀男
- 6 種別・時期 集落址 平安時代
- 7 遺構・遺物 水田面 平安時代 1面



第43図 堂河原遺跡調査位置図

II 調査の所見

地表下270cmより平安時代と考えられる水田面を検出したが、水路の水面上はほぼ同じ高さであったため出水が激しく、詳細は不明であった。

20 北野遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 北野遺跡 (市台帳No31-18)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字雨宮字北野744-1
小林幸一
- 3 原因及び
事業者 民間事業=店舗建設
小林幸一
- 4 調査期間 平成10年10月12日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 集落跡 弥生～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第44図 北野遺跡調査位置図

II 調査の所見

これまでの調査から、当該地周辺では地表下約2.5mより水田面が検出されているが、工事による掘削は180cmであったため、遺構・遺物の検出はなかった。

21 天木下遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 天木下遺跡 (市台帳No180)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市大字寂崎字天木下880
丸善食品工業株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業=工場建設
丸善食品工業株式会社
- 4 調査期間 平成10年10月12日、10月19日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 集落址 古墳～平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第45図 天木下遺跡調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は180cmであり、立会調査時に210cmまで掘り下げたが遺構・遺物の検出はなかった。

22 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 こうしゆくじりょうみづいであし
更埴条里水田址 (市台帳No.29)
- 2 所在地及び
更埴市大字屋代字セツ石13
土地所有者 榑場内商会
- 3 原因及び
民間事業=事務所建設
事業者 榑場内商会
- 4 調査期間 平成10年10月13日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 水田址 平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第46図 更埴条里水田址調査位置図

II 調査の所見

工事による掘削は90cmであり、70cmのところから水田面の可能性のある土層を検出したが、遺物の出土はなかった。

23 土口遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 どぐち
土口遺跡 (市台帳No.39)
- 2 所在地及び
更埴市大字土口字東262-1
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び
公共事業=道路建設
事業者 更埴市 (建設課)
- 4 調査期間 平成10年11月16日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 集落址 縄文~平安時代
- 7 遺構・遺物 なし



第47図 土口遺跡調査位置図

II 調査の所見

耕作土の下には暗茶褐色土が約65cm堆積していたが、遺構・遺物の検出はなかった。

24 大池南遺跡

立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 大池南遺跡 (市台帳No45-1)
- 2 所在地及び
土地所有者 更埴市
更埴市大字八幡字芝山2
- 3 原因及び
事業者 更埴市 (農林課)
公共事業＝道路建設
- 4 調査期間 平成10年11月18日
- 5 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
- 6 種別・時期 集落跡 縄文時代
- 7 遺構・遺物 なし



第48図 大池南遺跡調査位置図

II 調査の所見

約80cmの盛土の下には黒色土が40cm堆積し、その下層は黄褐色のローム層となっていた。当該地は急傾斜地であり、遺構・遺物の検出はなかった。

報告書抄録

ふりがな	へいせい10ねんど こうしよくしまいぞうふんかざいちようきほうこくしよ							
書名	平成10年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集者名	小野紀男							
編集機関	更埴市教育委員会 文化課 文化財係							
所在地	〒387-8511 長野県更埴市杭瀬下84番地				TEL 026-273-1111			
発行年月日	1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
更埴条里 水田址	長野県更埴市 大字蘆代字返町	20216	29	36 31 54	138 8 31	19980408～ 19980430	800	物産館建設に伴う発掘調査
一本松	長野県更埴市 大字鶴岡山字大牧	20216	77	36 32 1	138 6 4	19981116～ 19981130	100	稲荷山公園建設に伴う発掘調査
倉科 水田址	長野県更埴市 大字倉科字古屋	20216	211-2	36 31 45	138 9 34	19990323～ 19990331	50	(仮)ふれあいプラザ建設に伴う発掘調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
更埴条里 水田址	水田址	平安時代	水田面 畦畔	1面 4基	縄文晩期土器片 土師器、須恵器		仁和4年(888)の砂層下の水田跡	
一本松	古墳	古墳時代 中世	古墳 土坑	1基 1基	土師器、須恵器		直径約10.5mの円墳 東側に遺出が付属	
倉科 水田址	水田址	不明	水田面	1面				

平成10年度 更埴市埋蔵文化財調査報告書

発行日 平成11年 3月31日

発 行 更埴市教育委員会

〒387-8511 長野県更埴市杭瀬下84番地

電話 (026) 273-1111

印 刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野県長野市西和田470

電話 (026) 243-2105
